



Newsletter

No.36 (2017.12.26 発行)

JAICOWS 総会・講演会のお知らせ

日 時：2018年1月27日（土） 12：00～12：45 役員会
13：00～13：45 総 会
14：00～17：00 講演会

講演会：「ダイバーシティとは何か 女性研究者支援とのかかわりで（仮）」

江原由美子 横浜国立大学教授

会 場：青山学院大学 青山キャンパス 8号館 4階会議室

※これまでの会場とは違う建物です。

正門を入りまっすぐアーケードを突き進み、右側のガウチャー礼拝堂の先です。

校内マップは <http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/aoyama.html>

- JAICOWS 会員の方：出欠の有無・委任状を同封のハガキで1月21日までにご返送ください。
 - JAICOWS 非会員の方：JAICOWS 講演会や今後開催される研究会もごございますので、参加をご検討の際は是非ご出席ください。
- また勝手ながら、入会申込書を同封いたしましたので、入会ご希望の方はご利用ください。

日本学術会議 女性会員 32.9% 女性連携会員は 28.8%に

10月1日から始まった日本学術会議第24期の会員210人の半数に当たる105人の新会員名簿が発表された。新会員のうち女性は35人。全体で69人になって女性会員の割合は前期の約23%から約33%に増えた。連携会員1,883人中、女性は542人で28.8%とこれも3割に迫った。

日本学術会議第24期 新女性会員 35人のお名前、所属、専門分野

お名前	所属	専門分野
相澤 彰子	国立情報学研究所	情報学
相田 美砂子	広島大学	化学
浅見 真理	国立保健医療科学院	環境学 健康・生活科学
池田 素子	名古屋大学	農学
石塚 真由美	北海道大学	食料科学 環境学
大倉 典子	芝浦工業大学	総合工学 情報学
大島 まり	東京大学	機械工学
大野 由夏	北海道大学	経済学

神奈木 真理	東京医科歯科大学	基礎医学
経塚 淳子	東北大学	農学 基礎生物学
熊谷 日登美	日本大学	食料科学 農学
栗田 禎子	千葉大学	史学 地域研究
小松 浩子	慶應義塾大学	健康・生活科学
菅原 洋子	北里大学	化学
杉本 亜砂子	東北大学	基礎生物学
関根 千津	(株)住友化学	化学
高村 ゆかり	名古屋大学	法学 環境学
高山 佳奈子	京都大学	法学
多久和 典子	石川県立看護大学	基礎医学
筑本 知子	中部大学	総合工学 材料工学
所 千晴	早稲田大学	総合工学 化学
名越 澄子	埼玉医科大学	臨床医学
西尾 チヅル	筑波大学	経営学
野尻 美保子	高エネルギー加速器研究機構	物理学
春山 成子	三重大学	地球惑星科学 環境学
別役 智子	慶應義塾大学	臨床医学
眞柄 秀子	早稲田大学	政治学
松井 三枝	金沢大学	心理学・教育学
松下 佳代	京都大学	心理学・教育学
水野 紀子	東北大学	法学
宮地 充子	大阪大学	情報学 電気電子工学
望月 眞弓	慶應義塾大学	薬学
山崎 典子	宇宙航空研究開発機構	物理学
山本 里枝子	富士通研究所	情報学
米田 雅子	慶應義塾大学	土木工学 建築学

**日本学術会議第24期、女性会員30%時代
これを基礎に、日本のジェンダー・ギャップ状況改善への施策を！**

JAICOWS会長 羽場久美子

日本学術会議第24期が2017年10月1日より始まり、執行部として山極壽一会長、三成美保、渡辺美代子、武内和彦各副会長が就任されました。前期の井野瀬久美恵、向井千秋副会長に続き、今期も2名の女性副会長が執行部に入り、男女共同参画、若手育成、および科学と社会を担当されることになったことは極めて重要なことです。

また今期会員210名中選出された半数105名の新会員のうち女性は35名で、全体で69名、32.9%、同連携会員数1,883名のうち女性は542名で28.8%となりました。

これにより2020年までに30%という数の目標はほぼ達成されました。皆さまの積極的な活動を期待するとともに、JAICOWSとしても積極的にそれを様々な形で支えていきたいと存じます。

JAICOWSは、日本学術会議第15期に4名の女性会員の下「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言(声明)」が採択されたものの、第16期には会員が島田淳子氏一人になる中、日本学術会議の「外部で活動するNGO」として、第16期の一番ヶ瀬康子元会員を第1代会長として発足しました。その後、安川悦子会長、島田淳子会長、原ひろ子会長、羽場などを中心に積極的な環境改善の活動、共同活動を続けてきました。

今期も日本学術会議会員69人（32.9%）、連携会員542人（28.8%）とも連携しつつ、それを支援する形で積極的な活動に取り組んでいければと思います。

新しい会員、連携会員の方には、是非JAICOWSの会員にもなっただき、ともに女性研究者の研究環境改善に取り組んでいただければ幸いです。

他方で、2017年11月に「世界経済フォーラム」にて発表された各国の男女格差を測る「ジェンダー・ギャップ指数」（経済、教育、政治、保健の4分野）で、日本の順位は、2015年に145か国中101位、2016年に144か国中111位、2017年には、144か国中114位と、毎年過去最低を更新し続けています。分野ごとに見ると、健康は1位、教育は76位、経済が114位と若干改善、政治が129位と悪化し、政治の順位が全体を引き下げているといえます。例えば国会議員数についても、新興国先進国を問わず国会議員が3割、4割を占めつつある中、日本では1割前後で低迷している状況、経済では女性幹部育成を目指しつつ全企業の50%に女性幹部が一人もいないという状況を変えていく必要があります。

また女性の貧困問題の解決という観点からも、非常勤講師の雇用条件の確保、ドクター号を持ちつつ就職できない研究者や、子供を抱えつつ仕事を続ける女性の研究環境改善、さらに若い女性の過労死という労働環境の改善など、課題は山積みです。

日本学術会議の会員・連携会員30%というようやく到達した状況をサポートしつつ、女性研究者や日本の女性を取り巻く環境条件の改善に向け、今後とも取り組んでいきたいと存じます。

皆さまのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

2018年度の企画につきまして

JAICOWS 会長 羽場久美子

今回、日本学術会議第24期において、会員の33%が女性、また連携会員の29%が女性という状況を心よりうれしく思いますとともに、学術会議の皆さまおよびJAICOWS会員の皆さま方に、それぞれの場では是非女性やマイノリティの状況改善のために尽力していただきたい、また学術会議の発展をリードしていただきたいと存じます。

JAICOWSとしてもできるだけ日本学術会議で急速に増加した女性会員、女性連携会員の皆さま方と積極的に交流の場を設けつつ、要望や悩みを聴き、要望に即した活動を行っていきたくと思っています。是非多くの方にJAICOWSを知っていただき、入っていただき、ともに日本学術会議、学協会、会員や連携会員の環境を改善すべく活動して行きたいと思っています。これからも皆さまのご要望を一つ一つ実現する努力を継続していきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年、日本学術会議の社会学委員会のジェンダー分科会では「学術の再生産が危ない！」という企画が海妻先生を中心に企画されました。法学委員会でもジェンダーの重要会合が開かれております。JAICOWSと致しましても、会員や日本学術会議会員・連携会員の環境改善に加え、日本のジェンダー格差を下方に抑えている重要な問題として、1万人のポストドクに職がないという状況をふまえた院生・ポスト院生の研究環境の改善や、女性が極めて多い非常勤講師、とりわけ近年導入された労働契約法の改正と英語のセンター入試の変化に伴う、非常勤講師の職の不安定化と大量解雇の危険性という問題と環境改善にも、積極的に取り組んでいきたくと思っています。

今回、JAICOWS会員の皆さまにはインターネットで、日本学術会議会員と連携会員の皆さまには紙ベースとインターネットの双方から、非常勤講師の方にアンケートを依頼していただきたく、お忙しい時期とは存じますが、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

また皆さまのご要望を集めたいと存じております。

皆さまから、改善してほしい、取り上げてほしい要望があれば、是非出していただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。可能な限り改善すべく努力してまいりたいと存じます。JAICOWSの先達の方々は、日本学術会議に女子トイレもないところから一つ一つ身近な問題を含め改善を重ねてきました。皆さまのご要望が活動のエネルギーになります。是非小さなことでもご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

封書では奥付のワールドプランニング JAICOWS 宛、メールでは役員のどなたにでもご意見をいただければと存じます。どうぞよろしく願いいたします。ご協力ありがとうございます。

新しく日本学会の女性会員、女性連携会員になられた方々にも、是非 JAICOWS にご参加いただき、一緒に女性研究者の環境改善のために活動していきたいと考えております。何より、困ったこと改善してほしいことなどがあれば、お知らせください。

皆さまにとって素晴らしいまた幸せな 2018 年となりますようお祈りいたします。

2017 年度第 2 回役員会議事録

日 時：2017年9月19日（火）18：30～21：00

会 場：青山学院大学 総研ビル 10 階 第 17 会議室

出 席：羽場、岩井、小浜、袖井、直井、廣瀬、田原（7名）

議 事：

1. 非常勤講師へのアンケート調査について

JAICOWSが1997年に実施した非常勤講師を対象としたアンケート調査の概要について説明がなされた（直井）。続いて、新しいアンケート用紙と鑑文について提案がなされ（羽場）、意見交換が行われた。出された意見を踏まえてアンケートを修正し（羽場）、役員の確認を経て実施されることになった。実施方法は、非常勤組合とJAICOWS会員に協力を要請し、メールにアンケートを添付して送信する。アンケートの回収は、受信専用アドレスに返送してもらう。

2. 次回研究会について

次回研究会は、以下の要領で実施することが確認された。

日 時：2017年11月26日（日）14：00～17：00

会 場：青山学院大学 総研ビル 10 階 第 17 会議室

テーマと講師：

「女性内の階層性を考える」白波瀬佐和子先生（東京大学）

「高齢化社会の予防医学－老化と健康－」湯村和子先生（国際医療福祉大学病院予防医学センター）

講師の先生方には各 1 時間程度お話をさせていただく。

当日は、研究会の前に 13：00 より役員会を行う（昼食は各自）。

3. 総会の時期とシンポジウムのテーマなど

総会日程の第一候補は、2018年1月20日（土）とする（都合により後日、1月27日に変更）。また、同日開催の講演会の報告者について候補者を検討した。

2017 年度第 3 回役員会議事録

日 時：2017年11月26日（日）13：00～13：45, 17：15～19：00

会 場：青山学院大学 総研ビル 10 階 第 17 会議室

出 席：羽場、岩井、袖井、直井、廣瀬、田原（6名）

議 事：

1. ニュースレターについて

内容と発行スケジュールについて検討した。発送は、二段階に分けて行い、ニュースレターに加えて、

JAICOWS会員には総会出欠返信用ハガキを、第24期日本学術会議会員・連携会員（JAICOWS会員を除く女性）には入会案内を同封することにした。上記日本学術会議関係者の送付先リストの作成は、廣瀬役員と関係者の協力を得て行うことになった。

2. 非常勤講師へのアンケート調査について

前回役員会からの継続審議となっていた非常勤講師へのアンケート調査の実施について、羽場会長より提案がなされた。検討の結果、アンケート用紙の文言や体裁を整えて実施することになった。送付方法は、JAICOWS会員にはメールに添付し、JAICOWS会員を除く第24期日本学術会議会員・連携会員（女性）には印刷したものをニュースレターに同封することになった。

3. 総会とシンポジウムについて

以下の日時に役員会、総会、シンポジウムを開催することとし、シンポジウムの報告する候補者に打診することになった。

日 時：2018年1月27日（土） 12：00～12：45 役員会
13：00～13：45 総会
14：00～17：00 シンポジウム

会 場：青山学院大学 青山キャンパス 8号館 4階会議室

4. 今後の研究会予定

非常勤講師を対象としたアンケート調査結果の分析終了後に、非常勤講師の方々をお招きして研究会を開催したいという方向性が示された。

研究会報告 1

女性内の階層性を考える

白波瀬佐和子（東京大学教授）

日 時：2017年11月26日（日）14：00～17：00

会 場：青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル10階 第18会議室

本報告では、男女格差に関する国際データも参照しながら、女性内の階層性について検討した。まず、女性の地位を男性との比較から検討すると、日本におけるリーダー的役割を担う女性がいかに少ないかが目立つ。経済、教育、健康、政治の分野からジェンダー格差を検討した世界経済フォーラムによる Global Gender Gap Index から、2017年時点で日本は144カ国中114位と依然低い位置にある。そこには、意思決定の場に参画する女性リーダーの少なさが背景にある。

リーダーシップを行使し、意思決定していく役割を担うことは男性であっても容易ではない。女性割合の引き上げといった一時的な対策のみならず、継続的なサポートを組み込んだ対策が求められる。他のOECD諸国同様に、日本女性にあっても高学歴化の進行が確認できる一方で、高学歴女性の無業率は相対的に高い。高学歴化が進行したといえども、女性の継続就労はまだ少数派で、継続就労とリンクした管理職割合も結果的に低くなる。将来的な昇進過程が男性同様には準備されず、昇進機会そのものが期待されていない状況は、日本女性の社会的地位の向上を阻む厚い壁となって立ちはだかる。

2015年8月「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が成立したが、その土壌となるインフラが女性全体の底上げという点でまだ不十分である。少数派の上澄みだけでなく、多くの女性たちの仕事が低賃金就労に集中する現実を直視して、多層的な対策を検討、行使することが、女性内の階層性を柔軟にすることにつながる。

研究会報告2

超高齢社会の予防医学 —老化と健康—

湯村 和子 (国際医療福祉大学病院教授 予防医学センター・腎臓内科医師)

腎臓は「寿命を決める」といわれるほど健康維持のために重要な働きをする臓器である。年をとると知らないうちに腎機能が低下する人が増え、高齢での透析患者も年々増大している。腎臓は一般的に“尿を作る臓器”としてしか認識されていないが、①水・電解質の恒常性維持 ②老廃物の排泄 ③内分泌機能などの生体のバランスをとる司令塔の役割を持っている。その中心をなす構造が糸球体で、血液が動脈から入り【輸入動脈】、糸球体内圧(約70mmHg)によって濾過されて原尿を作り、【輸出動脈】から出ていく。老化によって動脈や糸球体内の毛細血管が硬化し、腎臓が徐々に障害される場合(腎硬化症など)や老年期になり長年の糖尿病悪化(糖尿病性腎症)で末期腎不全になり透析を受ける場合もある。さらに、高齢になって突然に発症し腎不全に至る急速進行性糸球体腎炎(主に顕微鏡的多発血管炎による)もある。いずれの腎臓の病気も治りきらないと老廃物が体内にたまっていわゆる尿毒症となり全身症状が出て透析療法が必要となる。透析は尿に十分出きれない老廃物を体外に出す治療である。

腎臓は「物言わぬ臓器」で症状は乏しいことがほとんどである。症状が出てからでは遅く、40歳を過ぎたら超音波検査(腎腫瘍の発見、多発性嚢胞腎の診断、生まれながら片腎である場合)を受けたり、また単に高血圧であっても、腎臓病や腎機能の低下が潜んでいるのではないかを調べることも重要である。腎臓の機能が低下している場合などは脱水(熱中症)になりやすいので、よく水を飲むなどの心構えが必要となる。検診などで尿検査(蛋白尿、血尿)に加えて血液検査(血清クレアチニンは腎機能の重要な指標となる)などを受け、異常所見が見つかった場合、放置しないことが大切である。

腎臓に心配なことがおありの場合は、wyumura@iuhw.ac.jp にメールください。

日本学術会議におけるジェンダー関連のシンポジウム報告

1. シンポジウム<「学術の再生産」が危ない!>

日 時: 2017年9月18日(月:敬老の日) 13:00~16:30

会 場: 青山学院大学総研ビル12階 大会議室

9月18日、日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会の主催で、
<「学術の再生産」が危ない!>と題するシンポジウムが開かれた。

報告者は以下の通りである。

- ・河野銀子(山形大学/日本学術会議社会学委員会ジェンダー分科会連携会員):
「女性研究者はどこにいるのか—ジェンダー統計の現状と限界を探る」
- ・廣森直子(青森県立保健大学):「非正規化のすすむ図書館職場で専門性は保てるか—専門職の非正規化が女性によって受け入れられている現状を考える」
- ・清末愛砂(室蘭工業大学):「女性研究者支援」事業は誰のためにあるのか—研究者の消費と搾取構造を考える」
- ・羽場久美子(青山学院大学/日本学術会議政治学委員会副委員長/JAICOWS(女性科学研究者の環境改善に関する懇談会)会長):「グローバル化時代の先進国女性の貧困—日本社会の底辺を支える女性、女性研究者の貧困をどう解決するか?」

最初に、海妻径子(岩手大学)氏が、全体を俯瞰し、研究者、学芸員、司書、非常勤講師など、元来学術関連専門職の基底レベルに女性が多かったが、近年それらの人々について著しく非正規化が進み、低待遇が特徴となっていること、低待遇を放置して、「学術の再生産」は可能なのか?と、シンポジウムの趣旨



を説明した。

河野銀子氏は、女性若手研究者の採用・雇用形態や研究環境の悪化とその問題点について、多くのデータを用いつつ検討した。同時に、公式統計がジェンダー問題を捉えるのに十分なデータとなっていない現状を指摘し、改善の必要性を提起した。

廣森直子氏は、図書館という知の現場で、近年非正規化により著しい低待遇が進んでいること、それが女性によって支えられていることの問題点を詳細に分析した。

清未愛砂氏は、台風が北海道を直撃する中スカイプでシンポジウムに参加され、非常に臨場感あふれる報告で会場を引き付けた。近年奨励されている男女共同参画と『女性研究者支援』という最も女性支援を行うと予想される場において女性研究者間に階層差が存在し、女性専任教員が女性非正規職員を搾取する構造を指摘し、警鐘を鳴らした。

羽場久美子は、グローバル化の中で広がる格差が特に先進国女性を直撃しており、大学ではポストドク、助手、非常勤講師に女性が集中し、正規職になる展望は狭き門であること、非正規研究員は常勤研究者の10分の1から5分の1程度の賃金で研究活動を行っている矛盾、さらにセクハラやパワハラ、管理職に容易につけない構造があり、世界的にも日本女性の政治経済的エンパワーメントは落ち続けていることを紹介・分析した。

討論に際しては、若手研究者や地方の参加者から、是非若手研究者が希望を持てるように女性研究者やポストドクに対する改革を進めてほしい、男女共同参画において女性非正規研究員への搾取が存在するような構造を是非早期に改めてほしい、全体として、研究職の底辺を占め続ける女性非正規労働者の研究を保証し正規化を促進する制度や改革を提案してほしいなど、積極的発言が相次いだ。

この問題は今回で終わることなく、継続的に政策化まで含めて検討していきたい重要な課題であり、組織者の海妻先生はじめ講演者参加者の皆さまに心より感謝申し上げます。

(羽場久美子)

2. シンポジウム「ジェンダー平等政策の今を問う」

日 時：2017年9月23日（土）13：00～17：00

会 場：学習院大学目白キャンパス 西2号館301教室

9月23日（土）、学習院大学目白キャンパスにて、ジェンダー法学会の後援を得て、日本学術会議法学会委員会ジェンダー法分科会・同社会学委員会ジェンダー政策分科会が主催する公開シンポジウム「ジェンダー平等政策の今を問う」が開催された。その目的は、女性の活躍が期待される各分野の最近の政策動向について、ジェンダー研究の視点から分析を加え、課題を明らかにするとともに、解決策について検討することである。

まず、後藤弘子教授（千葉大学大学院専門法務研究科）の趣旨説明から始まり、皆川満寿美講師（早稲田大学）による「第2次安倍政権と男女共同参画関連施策」、浅倉むつ子教授（早稲田大学大学院法務研究科）による『働き方改革』とジェンダー平等、後藤弘子教授による「性刑法改正とジェンダー平等」、廣瀬真理子（東海大学教養学部）による「高齢者介護政策とジェンダー平等」の4報告が行われた。

各報告の後で、吉田克己教授（早稲田大学大学院法務研究科）の司会により総合討論が行われたが、ここでは、フロアからの質疑にもとづき、活発な議論が展開された。最後に、三成美保教授（奈良女子大副学長）が閉会の辞を述べて終了となった。本シンポジウムの要旨は、『ジェンダー法研究』第4号（2017年12月刊行：信山社）に掲載されている。

(廣瀬真理子)

アンケートの実施についてのお願いと回答方法

JAICOWSは、日本学術会議会員・連携会員の環境改善を目指す団体ではありますが、1万人のポストドクに職がないこと、労働契約法の改正、英語のセンター入試の変化に伴う非常勤講師の職の不安定化と大

量解雇の危険性などの状況も見過ごすことはできません。そこで院生・ポスト院生の研究環境の改善や、女性が極めて多い非常勤講師の問題についても積極的に取り組んでいきたいと考えております。

そこで、今回、JAICOWS としても非常勤講師の方のアンケートに取り組みたいと考え、JAICOWS 会員にも是非ご協力いただきたいと考えました。以下をお読みいただき、身近な非常勤講師の方々に調査票を配布または転送していただきたく、お願い申し上げます。

なお、調査対象は【他に常勤職を持たない、大学・短大・専門学校の非常勤講師の方々】です。

調査の方法

《JAICOWS 会員の方々》

年末から年始にかけてメール添付で調査票をお送りしますので、身近な非常勤講師の方々に転送していただけたらと思います。回答はインターネット経由でお願いしますが、郵送でもけっこうです。

《JAICOWS 会員でない日本学術会議会員・連携会員の方々》

ニュースレターに調査票をプリントアウトしたものを同封いたします。身近な非常勤講師の方々に配布していただき（必要ならコピーをお願いいたします）、回答は郵送するか、インターネット経由でご回答ください。

郵送の場合には封筒の表に赤字で<アンケート回答中>とお書きください。

なお、URL や送付先など詳しいことはアンケートに書き込みますので、ご覧ください。

新入会員について

第 35 号発行以降、日本学術会議会員・連携会員の交代時期でもあり、新規入会者はありませんでした。2017 年 12 月 1 日現在、会員数は 116 名です。入会を歓迎します。

(この号は、直井道子が係りでした。)

連絡先： 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒206-8515 東京都多摩市永山 7-3-1 国士舘大学体育学部 田原淳子研究室
Tel・Fax：042-339-7294（研究室直通）
E-mail：tahara@kokushikan.ac.jp
<http://side.parallel.jp/jaicows/>

事務センター： 株式会社ワールドプランニング
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル
Tel：03-5206-7431 Fax：03-5206-7757
E-mail：world@med.email.ne.jp

郵便振替口座番号： 00100-8-542793
ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 0542793
（口座名義）女性科学研究者の環境改善に関する懇談会